
ロリコンいけない！

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロリコンいくない！

【Nコード】

N2358G

【作者名】

柘鏡

【あらすじ】

私はチユリと歩いていた。彼女の手を取って、公園を横切った。

私はチユリと歩いていった。彼女の手を取って、公園を横切った。今年五歳になったばかりのチユリの手はぷにぷにしている、気持ちいい。思わず、顔が綻んでしまう。にまにま。

公園を抜けると、大通りがある。私はチユリの誕生日プレゼントを買う予定だった。

今月の小遣い三万円のうち、いくらをつぎ込むべきか考えていると、声をかけられた。「おい、おまえ」

「何ですか？」無礼な物言いに私は怒りながら、振り向いた。警官がいた。

「おまえ、職業はなんだ？」

「無職です」

「なんだと、こつちこい」

私とチユリは交番へしょっぴかれた。まったく、なんだというのだ？ 私が何をした？ チユリと歩いていただけじゃないか。

「そつちの子は、おまえの何だ？」

相変わらず警官に礼はない。公務執行妨害という必殺技があるからって、いい気になんなよ。

「娘です」

「うそつけ、無職に娘なんかいるか！」

「そつちこそなんですか！ 妻だっているんですよ！」

「ほう、証明してもらえるか？」

無職の私には身分証もなければ、保険証もなかった。しかも悪いことに結婚指輪を外していた。

警官が笑った。そしてチユリに訊いた。「この人はお嬢ちゃんのパパなのかい？」

チユリは聡明な子だ。ちゃんと空気を読んでくれると思った。

が、チユリはとんでもないことを言った。「違うよ。識しらないお

じさん」

手に縄がかかった。

留置場に私はいた。

なんでこんなことになった？ 私はチユリと歩いていただけではないか。

「あなた？」

妻の声だった。

「おお、おう」

「私が身分証明したから、出ましょう」

「ありがとう」

さすがは、出来る妻だ。年商五億の会社社長だけはある。つまり私はヒモなのだった。

妻の横にチユリがいた。チユリはにやにやしていた。

警官が誤認逮捕を謝る中、チユリが私に耳打ちした。「誕生日プレゼントけちろうとするからだよ」と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2358g/>

ロリコンいけない！

2010年11月25日18時11分発行